

【様式1-1】

知名町 長寿命化修繕計画

平成25年10月

(平成31年3月更新)

知名町 建設課

1. 長寿命化修繕計画の目的

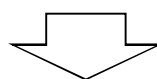
1) 背景

本町が管理する橋梁は、平成25年度現在で10橋である。

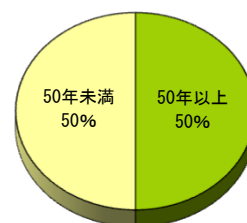
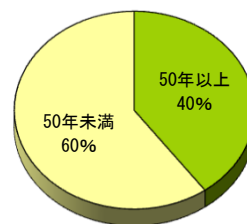
このうち、建設後50年を経過する橋梁は全体の40%を占めており、20年後の平成45年には50%程度に増加する。

これらの高齢化を迎える橋梁群に対し、従来の対症療法型の維持管理を続けた場合、橋梁の修繕・架け替えに要する費用が増大することが懸念される。

平成25年度
4橋
(40%)



平成45年度
5橋
(50%)



2) 目的

このような背景から、より計画的な橋梁の維持管理を行い、限られた財源の中で効率的に橋梁を維持していくための取り組みが不可欠となる。

コスト削減のためには、従来の対症療法型から“**損傷が大きくなる前に予防的な対策を行う**” 予防保全型へ転換を図り、橋梁の寿命を延ばす必要がある。

そこで本町では、将来的な財政負担の低減および道路交通安全性の確保を図るために、橋梁長寿命化修繕計画を策定する。

2. 長寿命化修繕計画の対象橋梁

	町道 1級	町道 2級	町道 その他	合計
全管理橋梁数	2	1	7	10
うち計画の対象橋梁数	2	1	7	10
うちこれまでの計画策定橋梁数	0	0	0	0
うち平成25年度計画策定橋梁数	2	1	7	10

長寿命化修繕計画の対象：

- ・ 緊急輸送路に位置する橋梁
- ・ 観光地へのアクセス道路に位置する橋梁
- ・ 市町村間を結ぶ路線に位置する橋梁
- ・ 主要地方道へのアクセス路線に位置する橋梁
- ・ 近隣に重要な施設がある橋梁

3. 健全度の把握及び日常的な維持管理に関する基本的な方針

1) 健全度の把握の基本的な方針

定期点検（概略点検）や日常的な維持管理によって得られた結果に基づき、橋梁の損傷を早期に発見するとともに健全度を把握する。

2) 日常的な維持管理に関する基本的な方針

パトロール車により走行面の変状について点検を行うとともに、清掃により劣化を未然に防止することにより、損傷を早期に発見し予防保全に努める。

4. 対象橋梁の長寿命化及び修繕・架け替えに係る費用の縮減に関する基本的な方針

本町が管理する橋梁の中で、架設後30年以上経過した橋梁は全体の約50%を占めているため、近い将来一斉に架け替え時期を迎えることが予想される。したがって、計画的かつ予防的な修繕対策の実施へと転換を図り、橋梁の寿命を100年間以上とすることを目標とし、修繕及び架け替えに要するコストを縮減する。

5. 対象橋梁ごとの概ねの次回点検時期及び修繕内容・時期又は架替え時期

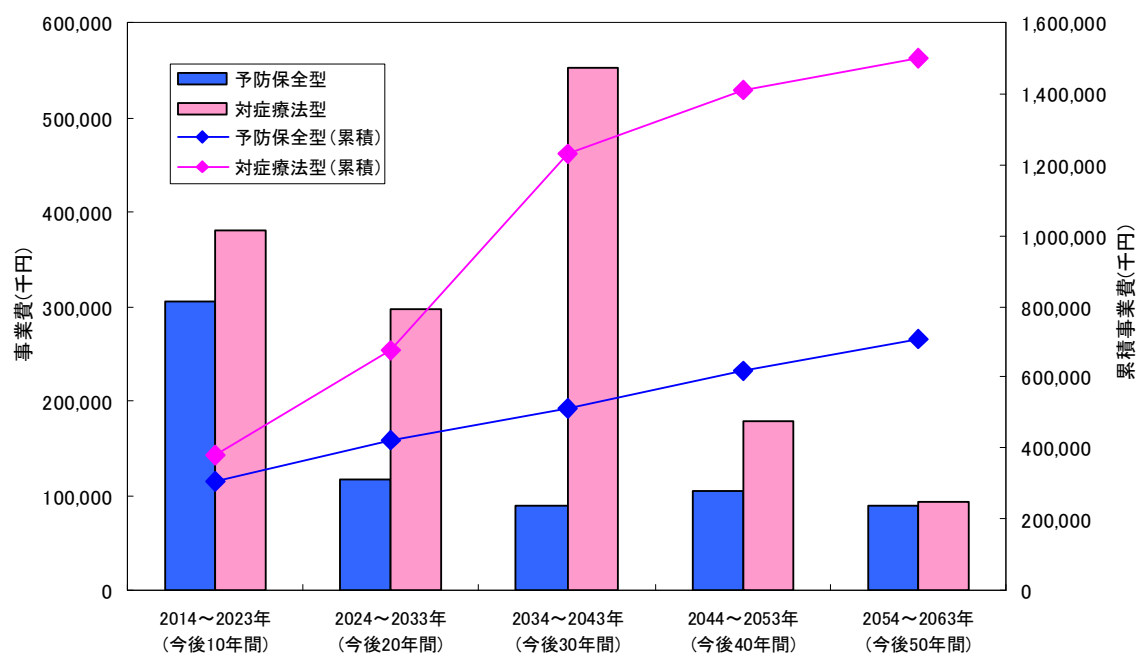
様式1-2による

6. 長寿命化修繕計画による効果

長寿命化修繕計画を策定する 10橋について、今後50年間の事業費を比較すると、従来の対症療法型に対し、長寿命化修繕計画の実施による予防保全型とすることで約 52%のコスト削減効果が見込まれる。

また、損傷に起因する通行制限等が減少し、道路の安全性・信頼性が確保される。

対症療法型	約 15.2 億円
予防保全型	約 7.3 億円
コスト削減効果	約 7.9 億円 (約 52%)



7. 計画策定担当部署および意見聴取した学識経験者等の専門知識を有する者

1) 計画策定担当部署

知名町 建設課 TEL : 0997-84-3161 (直通)

2) 意見を聴取した学識経験者等の専門知識を有する者

鹿児島大学大学院 理工学研究科 武若 耕司 教授

鹿児島大学大学院 理工学研究科 山口 明伸 教授

8. 対策の優先順位の考え方

点検結果に基づき、効率的な維持及び修繕が図られるよう必要な対策を講じます。

- ・対策の優先度については、諸元重要度指数と損傷度指数を総合的に考慮した優先度指数で判断します。
- ・速やかに補修を行う必要がある区分「Ⅲ」と判定した橋梁については、損傷箇所数や損傷程度を考慮し、優先的に対策を実施します。

※区分「Ⅱ」の施設については、周辺の交通状況や供用年数等を考慮し、今後必要に応じて補修を実施する予定です。